

## 第6回 片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

日 時：2023年（令和5年）7月13日（木）15時30分～17時15分

場 所：片瀬市民センター 第2談話室

出席者：【検討委員】渋谷会長、松本副会長、甲斐氏、和田氏、林氏、北川氏、  
正田氏、荻野氏、井口氏

【事務局】（市民自治推進課）森主幹、野田補佐

（片瀬市民センター）幸田センター長、森井主幹

欠席者：【検討委員】若月氏、畠山氏、坂間氏【事務局】（市民自治推進課）日原参事

資 料：【資料1】第5回片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

【資料2】片瀬山市民の家再整備方針（概要版）（案）

【資料3】配置イメージ(Ver.2)

【資料4】配置イメージの変更点

【資料5】諸室の機能・仕様等

【資料6】調整会議終了後の進め方について

### 議 題

#### （1）前回の議事の確認

- ・事務局から資料1に基づいて説明。前回会議の要旨について資料記載のとおり確認された。
- ・前回の会議で今回報告予定としていた複合化の方針について、本日の政策会議で複合化は行わず、市民の家単独で整備する方針が決定した旨が報告された。
- ・前回の会議で新施設は木造とする説明だったが、今回の配置イメージの見直しでフリースペースとして広い空間を設けるようにしたため、場合によっては、軽量鉄骨造とし、内装を木質化する可能性があることが報告された。

#### 【質問・意見】

- ・複合施設にしないことが決まったとの説明があったが、提言書を出して市長からそれに沿ってやりますという返事の文章は見えていないがいただいたはず。それにも関わらず（避難所を）複合化しないというのでは、会議をやる意味がない。
- ⇒（市）市から複合施設にしますという回答はしていない。その当時はコロナ禍に入るタイミングだったので別に協議の場を設けますという回答をさせていただいている。

- 平成17年の片瀬まちづくり協議会で市が片瀬幼稚園跡地の半分を売却して残りの半分で市民の家を作るという提案をしたが反対を受け、片瀬地区新コミュニティ施設検討会議ができて市に提言書を出して、市長からそれなりの回答ももらった経緯がある。
- 避難所の開設について「災害が発生したタイミングで避難所として開設すると、市民の家に避難者が殺到する可能性がある。その結果、入りきれない避難者で溢れかえり收拾がつかなくなることも考えられるので、災害が発生した段階では開設せずに、片瀬中学校の収容状況を見た上で、必要が生じたときに拡張スペースとして開設する考え。」とあるが、これでは片瀬山に避難してくるなど言っているのと同じ。
- 「片瀬山市民の家を単独で指定避難所として指定することを皆さんが本当に求めるか。その場合には、施設の規模以上の人数が避難してくる可能性があるが耐えられるか。」とあるが、このような考え方で進めてきていることが残念でならない。市民の家を建てられれば良いという考えが滲んでいる。
- 片瀬地区が大地震の時にどうなるかはハザードマップのとおり想定がされている。収容施設が不足することが目に見えている状況で高台の片瀬山に施設を作るときに避難施設として作らないことは考えられない。これは市の姿勢の問題で市長が決定すべき問題で市の姿勢の問題。今の市の考え方では適合しないのであれば基本的な考えを作り直せばよいのではないか。山の下の間人はみんな怖がっている。複合化しませんでは納得できない。
- (市) これまでも市の防災の水準を上げるべきという趣旨のご意見をいただいているが、その議論をこの場でしていると先に進めない。
- 片瀬地区の乳幼児を抱えたお母さんなどはいつ起こるかわからない災害について毎日不安に感じている。
- (市) これまで提言書を踏まえて市の防災安全部と何度も調整してきているが、市としては新たに単独の避難所を作る考えはなく、既存の施設を避難所として活用していく方針。その中で市民の家を指定避難所としても活用できるように太陽光発電などの必要な設備をできる限り備えるようにしてきた。決して、防災に関する提言やご意見を度外視しているわけではない。
- まちづくり協議会の全体集会で避難施設と複合化しないことを説明すべき。しませんでは納得できない。
- 前回の会議で片瀬山西公園側に花壇を作り、ボランティアに管理してもらえば人が集まるのではないかと提言したが、配置イメージの資料に反映されていない。誠意が感じられない。

- ・提言書の内容が100%できるとは思っていないが、70～80%は叶っていると思う。これまで6回の会議を踏まえると避難所との複合施設にできないのはやむを得ないのかと思っている。
- ・鉄筋で作ってくれば防災の7、8割はかなうが今の計画では木造。数字的には震度7、8でも耐えられることは分かるが心情的には木造は頑張っても鉄筋には敵わない。
- ・(市) 前回の会議以降、防災安全部と調整した結果、新施設については指定避難所として取扱うことになった。
- ・なぜ、指定避難所として公表しないのか。  
⇒(市) 片瀬中学校が指定避難所になっているので、その1施設という扱いで公表することになる。
- ・この調整会議の前の会議から参加されている方のことを考えると会議の名前も含めて市民の家を作るのと、防災関連の施設を作るのでは片瀬の方の意識はずいぶん違うと思う。市の事情はあると思うがやむを得ない理由でそうなったことについて筋を通していけば片瀬の方も心情的に違ったのではないか。
- ・市民の家の物理的なキャパシティを考えると、どれだけの家族が入れるかはたかが知れているので片瀬中学校に隣接していることを生かして片瀬中は避難者と救援物資の収容施設にして、新施設は情報本部のようにして情報の集約と手厚い対応が必要な人の収容に使うのがよいのではないか。また、避難施設としての周知については、要支援者の方を中心に周知して一般の方は片瀬中に避難していただいたほうが混乱は少ないのではないか。片瀬山西公園も含めて市民の家と片瀬中をそれぞれ役割分担してうまく使うことで災害時の混乱を避けられるのではないか。
- ・今の市民の家は耐用年数にしても耐震性にしても建て替えなければ駄目なので、建てることを皆さんに認めてもらわないと話が先に進まない。防災に関して多くの意見があるが、防災については市にかなり譲歩してもらっていると思う。提言書では普段は市民の家として使い、災害時には避難施設として使えるようにしてほしいと言っている。最初から防災施設とは言っていないので皆さん誤解しないでほしい。建てる方向で議論を進めてほしい。
- ・市民の家を建てることには反対していない。建てるならばもう少し良いものを作ってほしいという願い。片瀬には避難ビルはあるが、あくまでも避難場所で生活はできない。家が壊れたり流されてしまえば片瀬山に来ることがあるので、その時に避難者が入れるようにしておいてほしい。なおかつ、避難所に弱者がいたら優先的に入れる施設にしたいという思い。片瀬小や片瀬中は避難所になっているが所詮は学校で毛布や缶パンがある程度であって体育館で雑魚寝をし

てくださいというものなので、弱者が優先的に入れるような施設を作ってほしいと言っている。

- 片瀬小、片瀬中、白百合学園と3か所あるが収容人数は足りないと思っている。そういう状況にもかかわらず避難施設を作らないのは変ではないか。
- いざというときに片瀬の方も困った方が使える施設にしたいということだと思う。おそらく数的にはたかがしれているので、不特定多数の人がここに来たら安心できるようなコミュニティ拠点施設として、オープンにコミュニティが取りやすい施設について話をしたほうが議論が進むのでは。
- 片瀬の住民としては一つ新たに避難できる場所ができると思っていたので、複合施設としてできればベストだが、最大限今できることを皆さんで調整して防災に強い場所として多くの人に知れ渡れば新施設にみんなが期待を持つと思うので、そうした話し合いができれば良いと思う。
- 当初は複合施設ということだったようだが指定避難所になるということで、それに適した建物ができるという希望を持っている。
- 大きい部屋だけで大丈夫か。今は少人数で話し合いができる部屋がある。また、2階建てにして小さい部屋をもう少し増やせないか。  
⇒ (市) 延床面積はこれが限度。今の市民の家の利用状況を踏まえてもこれ以上大きくすることは説明がつかない。平屋のまま小さい部屋を作る方向で考えたい。
- 市民の家としても災害時にも使いやすい施設にする必要がある。せっかく新しく作るのに市民の家が綺麗になっただけでは物足りない。
- (市) これまでの市民の家で防災機能を持った避難所としている施設はなく今回が初めてのケース。皆さんのご意見を踏まえて一步前に進んだ点をご理解いただきたい。
- (市) 配置イメージはあくまでイメージ図で最終的には複数の業者から提案をいただいてコンペをする。その中でベストな提案をいただいた業者に発注することになるので、この図面のおりのものが出来上がるわけではないという点をご注意いただきたい。
- コンペをするときに運営委員の方に見てもらって図面の修正はできるのか。  
⇒ (市) ベースとなる案を基に業者を選ぶが、細かな調整はできると思う。
- 建物が無くては防災はできない。運営していく中で防災はいくらでもできるので、片瀬の皆さんにもアドバイスをいただきながら運営の中で議論していただきたい。
- フリースペースに窓がない。ガラス張りにするなど開放的にしてもらいたい。トイレを見て集うようになってしまうのでトイレの場所も工夫が必要。花壇は

- ボランティアみんなで作れるような大きなものがあると思う。
- ・西と東は反転して片瀬山西公園に行けるようにしたほうがいいと思う。
  - ・和室兼相談室となっているが、相談室は相談内容が聞こえないように個別に作ってほしい。2, 3人入れればいいので4, 5帖程度でも授乳室としても使えるように。
  - ・小部屋が多いのも使い勝手が悪い。パーテーションで区切れるようにしてはどうか。  
⇒ (市) パーテーションだと簡易的な壁になってしまうのでプライベートな相談がしにくいかもしれない。
  - ・ホール兼会議室を80人位は入れるようにしてほしい。今は大人数の会議は片瀬中の会議室を使っている。  
⇒ (市) 延床面積はこれが上限。ホールを大きくすればその分、他の部屋を小さくしなければならないのでスペースの配分を考える必要がある。
  - ・キッチンが料理教室をするにはアイランドキッチンが良いが、普段使うにはその必要はないかもしれない。
  - ・壁にシンクとコンロを寄せたほうがスペースを広く取れて会議室代わりにもなる。
  - ・テーブルは調理実習台のようなシンク付きで蓋ができるようなものにすれば机にも調理台にも使えるのではないかと。片瀬山の実習室も会議室として使っている。  
⇒ (市) 空いているときはフリースペースの一部として使うことを想定したとき、調理実習台だと座ったときに足が入らないのが難点。
  - ・片瀬市民センターの実習室は調理実習台だが会議にも使っている。調理台にも机にもなるので良いのではないかと。
  - ・キッチンはいざという時のために2台あったほうが良い。
  - ・資料4に防災備蓄倉庫56㎡とあるが、配置イメージは12㎡になっている。  
⇒ (市) 12㎡が正しく56㎡は誤り。市全体で使う拠点倉庫の併設を検討しているが調整中のため、片瀬山市民の家分として確保する12㎡を記載した。
  - ・防災備蓄倉庫については、目白山に立派な倉庫があるのでここに作る必要はないのではないかと。それよりも建物を大きくしてほしい。拠点倉庫は目白山の倉庫を補強して作ればよいのではないかと。  
⇒ (市) 市内各所に備蓄品を保管しているが場所が不足しており学校の空き教室なども利用したりしている状況。そのため新たに公共施設を整備するときには可能な限り拠点倉庫を整備するように各部局にお願いしている。ここに作る事ができれば片瀬中学校や片瀬小学校、白百合学園などに入りきらない分を

入れることができ、周辺地域からの避難者のための備蓄品を配備することができるので防災政策課としてはありがたい。

- 目白山には11個の倉庫があるが、あの広さであれば30、40の倉庫が置けるのではないかと。
- ⇒ (市) あの倉庫には毛布が入っているが目一杯の状態。あれ以上置くと搬入車両の転回スペースなどが確保できないため今の配置になっている。他に置き場がなくなれば配置を変更して1つ2つ増やす可能性はある。
- あれだけのスペースがあるのもったいない。目白山が使えないのであれば、新しい市民の家の地下を片瀬地区のための食料倉庫にするなどできると思う。
- 市民の家を新しくするにあたって避難施設になったほうが良いのは当然だが、防災施設の議論ばかりしては進まない。災害が起きた時に長い間ここにはいられない。長期化すれば仮設住宅が作られると思う。7、8割の防災機能ができているのであれば、そこで納得しても良いのではないかと。
- 私は7、8割出来ていると思わない。片瀬は海拔が低い特殊な土地であるにも関わらず今のままの考えで良いのか。
- 防災に関しては運用の面で片瀬と片瀬山で協力してできることがある。話し合いは続くのでみんなで良い落としどころを探していきたい。
- 災害時には避難所は満杯になる。片瀬山に使える施設があるというだけで安心する。大きいものでなくとも充実した施設を作ってもらいたい。
  
- (市) 資料5をご覧ください。業者に条件を示すにあたりこの程度の情報が必要なのでこの内容を固めていきたい。駐車台数や屋外スペースの使い方などについても検討が必要。
- 和室は椅子があれば会議もできるし、赤ちゃん連れの方も使える。
- 相談室は小さくて構わないので個室がいい。
- (市) 資料に記載していなかったが、ホール兼会議室と和室を除き土足のイメージ。
- これは防災会からリクエストがあったもの。
- 片瀬山市民の家再整備ニュースの第2号を出してもらいたい。  
⇒ (市) 中途半端な情報を周知すると誤解を招く恐れがあるので、ある程度固まった段階で第2号の発行を予定している。
- (市) 次回で最後にはしない。次回ご意見をいただいて、その次の回に意見を反映した資料をご了承いただいて終了としたい。
- 市の防災計画は見直してもらいたい。現実的に対応できていないと思う。計画を基に駄目だと言われてしまうと釈然としない。

※ここまでで終了時刻となったため、議題（２）～（５）は次回に先送りとなった。

- ・（市）次回、８月に日程を確保して今回の会議資料を基に次回は市民の家の部屋の使い方を中心に話をしたい。日程はあらためてお伝えする。

以 上